

Asia Indicators

発表日: 2025年2月14日(金)

インド、食料価格の下振れでインフレ率は鈍化 (Asia Weekly(2/7~2/14))

~1月インフレ率は+4.31%に鈍化も、コアインフレ率は緩やかな底入れの動きが続いている~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/7(金)	(台湾) 1月消費者物価(前年比)	+2.66%	+2.47%	+2.11%
	1月輸出(前年比)	+4.4%	+3.5%	+9.2%
	1月輸入(前年比)	▲17.2%	+0.7%	+30.4%
2/9(日)	(中国) 1月消費者物価(前年比)	+0.5%	+0.4%	+0.1%
	1月生産者物価(前年比)	▲2.3%	▲2.1%	▲2.3%
2/12(水)	(インド) 1月消費者物価(前年比)	+4.31%	+4.50%	+5.22%
	12月鉱工業生産(前年比)	+3.2%	+3.9%	+5.0%
2/13(木)	(フィリピン) 金融政策委員会(翌日物リバースレポ金利)	5.75%	5.50%	5.75%
2/14(金)	(シンガポール) 10-12月実質 GDP(前年比・改定値)	+5.0%	+4.7%	+4.3%*
	(マレーシア) 10-12月実質 GDP(前年比・改定値)	+5.0%	+4.8%	+4.8%*

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。*は速報値

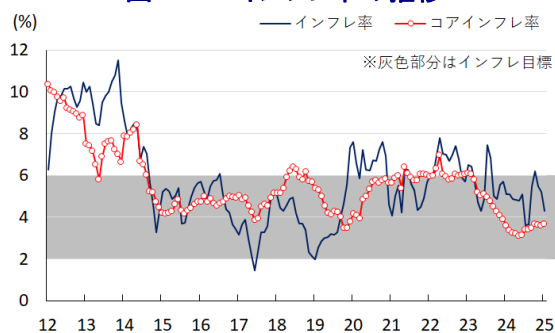
[インド]~食料品の物価下振れを受けてインフレ率は鈍化も、コアインフレは緩やかな底入れの動きが続く~

12日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+4.31%となり、前月(同+5.22%)から鈍化して5ヶ月ぶりの伸びに鈍化している。前月比も▲0.97%と3ヶ月連続で下落するとともに、前月(同▲0.56%)からそのペースも加速するなど頭打ちの動きを強めており、国際原油価格が底堅い動きをみせているほか、通貨ルピー安に伴う輸入物価の押し上げを反映してエネルギー価格は上昇が続く一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.66%となり、前月(同+3.58%)から加速して3ヶ月ぶりの伸びとなるなど緩やかに底入れする動きをみせている。エネルギー価格の上昇を受けた輸送コストの押し上げに加え、ルピー安に伴う輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が上昇する動きをみせているほか、足下の雇用環境は堅調な動きをみせていることも追い風にサービス物価も上昇基調で推移しており、全体的にみてインフレ圧力は緩やかに強まっている様子がうかがえる。

また、同日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比+3.2%となり、前月(同+5.0%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少するなど、頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。分野別では、鉱業部門の生産に底堅い動きがみられるものの、製造業で生産調整圧力が強まる動きがみられるとともに、幅広い経済活動の動向に左右される傾向があ

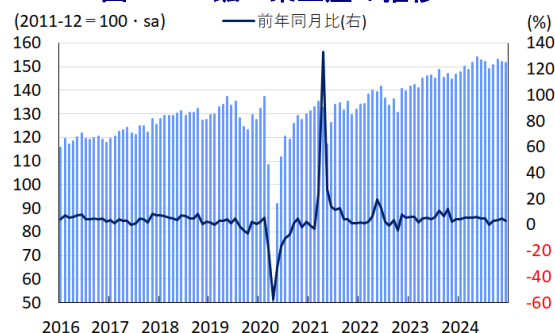
る発電量も減少に転じるなど、景気に下押し圧力が掛かっている様子が見えてくる。分野別では、年度末が近づくなかでインフラ関連財をはじめとする資本財関連のほか、中間財関連の生産に堅調さがうかがえるものの、消費財関連の生産は耐久消費財、非耐久消費財問わず幅広い分野で下振れする動きが確認されるなど、家計消費をはじめとする内需を巡る状況が生産活動に影響を与えている可能性がある。

図1 IN インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 鉱工業生産の推移

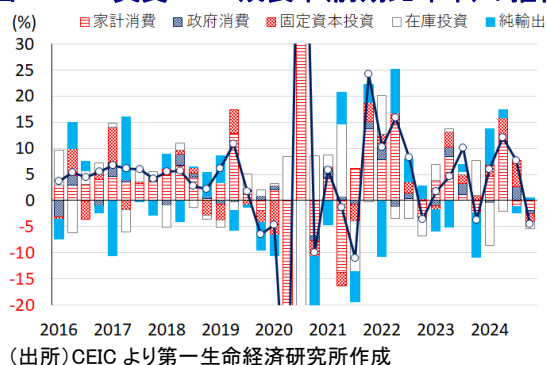


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成、季調値は当社試算

[マレーシア]~10-12月 GDP 改定値は上方修正も、底入れが続いた景気に一服感が出ていることは変わらず～

14日に発表された10-12月実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+5.0%となり、先月発表された速報値(同+4.8%)から+0.2pt上方修正されている。前期比年率ベースでも▲4.45%と4四半期ぶりのマイナス成長となるなど底入れが続いた流れに一服感が出ているものの、速報値(同▲5.72%)から上方修正されている。需要項目別では、世界経済を巡る不透明感の高まりを反映して輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、インフレ鈍化による実質購買力の押し上げにも拘らず家計消費は減少するとともに、企業部門による設備投資需要の動きも一巡しており、内需にも幅広く下押し圧力が掛かる動きがみられる。結果、輸入は輸出を上回るペースで減少しており、純輸出(輸出-輸入)の成長率寄与度は前期比年率ベースで+0.59ptと前期(▲1.26pt)から2四半期ぶりのプラスに転じるなど、実態は数字に比べて厳しいと捉えられる。他方、在庫投資の成長率寄与度は前期比年率ベースで▲1.42ptとマイナス基調で推移しており、在庫調整の動きが進んでいる様子が見えてくる。分野ごとの生産動向を巡っては、鉱業部門の生産が大幅に拡大するなど頭打ちが続いた流れに変化の兆しが出ているものの、外需の鈍化を反映して製造業の生産は大きく下振れするとともに、設備投資の低迷を受けて建設業の生産も下振れし、家計消費が弱含んでいることを受けてサービス業の生産も減少するなど、幅広い分野で生産鈍化の動きが確認されている。さらに、異常気象の頻発を受けて農林漁業の生産も下振れしており、先行きは供給懸念が食料品を中心とする物価上昇圧力を招く可能性に留意する必要がある。なお、昨年通年の経済成長率は+5.1%と速報値時点(+5.1%)と同じとなり、前年(+3.6%)から加速して2年ぶりの伸びとなっている。

図3 MY 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

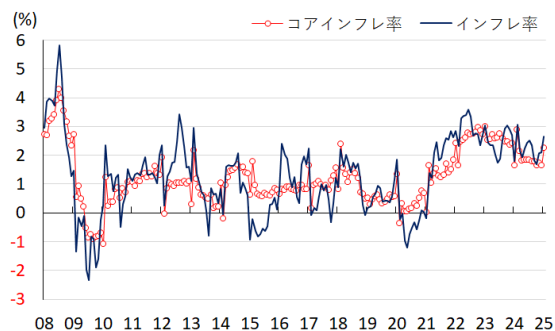


[台湾]～旧正月の時期のズレを勘案する必要はあるが、足下の輸出は底入れの動きが続いている模様～

7日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+2.66%となり、前月(同+2.11%)から加速して13ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.55%と前月(同▲0.01%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、ガソリンなどエネルギー価格に上昇圧力が掛かる動きがみられる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落しており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.26%となり、前月(同+1.65%)から加速して11ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.73%と前月(同+0.08%)から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かるとともに、国際金融市場における米ドル高を受けた通貨台湾ドル安が輸入物価を押し上げる動きも重なり、幅広く財価格が上昇傾向を強めているほか、今年は春節(旧正月)連休の時期のズレも重なる形でサービス物価も上昇基調を強める動きをみせるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子が見えてくる。

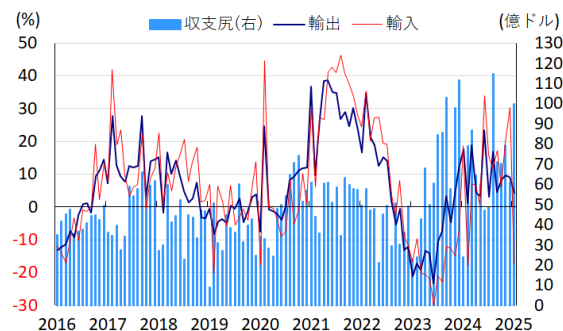
同日に発表された1月の輸出額は前年同月比+4.4%となり、前月(同+9.2%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+4.4%と前月(同+5.6%)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。財別では、鉱物資源関連や化学製品関連のほか、プラスチック関連など素材・部材に関連する分野で軒並み下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連に底堅い動きがみられるほか、電気機器関連の堅調さも輸出全体を下支えしている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国本土向けは下振れする動きをみせているほか、欧州向けも力強さを欠いているものの、米国向けは底堅い動きをみせているほか、日本向けやASEANなどアジア新興国向けの堅調さが輸出全体を下支えしている。一方、輸入額は前年同月比▲17.2%となり、前月(同+30.4%)から11ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲7.6%と前月(同+13.0%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、鉱物資源関連や化学製品関連など素材・部材関連で軒並み下押し圧力が掛かるなど、外需を巡る不透明感の高まりを反映して原材料需要が鈍化している様子が見えてくる。結果、貿易収支は+99.73億ドルと前月(+60.75億ドル)から黒字幅は拡大している。

図4 TW インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TW 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任を負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。